

第32回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 2003年10月7日（火）10:30～11:00

2. 場 所 中央合同庁舎第4号館7階 共用743会議室

3. 出席者 藤家委員長、遠藤委員長代理、木元委員、竹内委員
内閣府
藤嶋参事官（原子力担当）
経済産業省
電源立地対策室 都筑室長

4. 議 題

- (1) 東通原子力発電所設置に係る第一次公開ヒアリングの開催について
（資源エネルギー庁）
- (2) 第4回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）大臣級会合の開催について
- (3) 第3回総合企画・評価部会の結果について
- (4) 遠藤委員長代理の海外出張について
- (5) 原子力委員会へのご質問・ご意見について
- (6) その他

5. 配布資料

- 資料1 東京電力㈱東通原子力発電所1号機及び2号機の設置に係る第一次公開ヒアリングの開催について
- 資料2 第4回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）大臣級会合の開催について
- 資料3 第3回総合企画・評価部会の結果について
- 資料4 遠藤原子力委員長代理の海外出張について
- 資料5 原子力委員会へのご質問・ご意見について
- 資料6 第31回原子力委員会臨時会議議事録（案）

6. 審議事項

(1) 東通原子力発電所設置に係る第一次公開ヒアリングの開催について
(資源エネルギー庁)

標記の件について、都筑室長より資料1に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

(木元委員) 公開ヒアリングを開催するとき、以前は開催前に反対派の方々の活動が活発なときがあったが、最近の状況はどのようになっているか。

(都筑室長) 直近では敦賀発電所、青森県でいえば大間原子力発電所において公開ヒアリングを開催したが、大きな反対活動は見られなかった。今回の東通村については、今のところ大きな反対活動は報告されていない。

(遠藤委員長代理) 今回の答弁者は誰になるのか。

(都筑室長) 主催は経済産業省であるが、設置者である東京電力が回答することになる。経済産業省は場を設ける立場である。

(木元委員) 公開ヒアリングは形骸化しているという意見がある。そのことに対し、新しいやり方は考えていないか。

(都筑室長) 公開ヒアリングが終了後、報告書を作り、関係機関や地元自治体に配布しているが、今後は、主な意見について、ホームページ上で閲覧できるようにしたい。一次公開ヒアリングにおける意見については、今後の安全審査に参酌することになっているが、その参酌についても、どのようにしたかをまとめて、広く公開したい。

(藤家委員長) 今回開催される青森には、六ヶ所村の再処理施設、全炉心MOX燃料の使用を考えている大間原子力発電所、中間貯蔵施設の誘致を考えているむつ市などがある。どのような質問が出てくるか。核燃料サイクルに関わる議論がいろいろと行われており、原子力委員会としても重視している。今までと異なった意見が出てくると思う。

(木元委員) タイミングとしては、原子力委員会において「核燃料サイクルについて」をまとめたところであり、また、経済産業省においてもエネルギー基本計画が出されたところである。東通村には東北電力の東通原子力発電所もあり、こちらは順調に進んでいる。既に前例があり順調にいくと思うが、誠実に対応していただきたい。

(藤家委員長) 東北電力のときは、核燃料サイクルのことを正面から取り組まれていない段階で行われた。

(都筑室長) 意見陳述人に対し、質問内容を20日前までにいただくことになっており、核燃料サイクルについて、十分に回答できるように準備をし

たいと思う。

(2) 第4回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)大臣級会合の開催について

標記の件について、藤島参事官より資料2に基づき説明があり、以下のとおり発言があった。

(遠藤委員長代理) 沖縄で実施されているウリミバエの実験場をテクニカルツアーに入れていただきたい。

(木元委員) ウリミバエの施設について、テレビで放映され、それを機に、WEN(Women's Energy Network)の方が18名ほど見学に行かれた。大変に勉強になったと感想を述べられていた。

(3) 第3回総合企画・評価部会の結果について

標記の件について、藤島参事官より資料3に基づき説明があり、以下のとおり意見交換があった。

(藤家委員長) 資料3の2~3ページには、参与及び専門委員の方々からいただいたご意見のみ記載しているが、部会の場では、いただいたご意見に対する原子力委員会の考え方を回答している。後日掲載される議事録を見ていただきたい。

(木元委員) 本部会は構成員の方の人数が多く、それぞれの方が十分にご発言いただけなかったのではないかと思う。

(藤家委員長) ご出席いただいたすべての方にお話いただいたが、2時間という限られた時間の中では議論を深めるところまでいかなかった。本部会は、参与や専門委員のご質問に対し、原子力委員会の考え方や、実施してきた活動について、お答えする場でもある。2時間という限られた時間内で議論することは大変なことである。

(4) 遠藤委員長代理の海外出張について

標記の件について、藤島参事官より資料4に基づき説明があり、以下のとおり意見交換があった。

(遠藤委員長代理) NEA(原子力機関)では、核燃料サイクルを始めとする我が国における原子力発電の課題について話をする予定である。

(藤家委員長) 最近の世界の動きとして、米国やフランスにおいてサイクルを含む原子力のレポートが出ている。我が国においても8月5日に当委員会が「核燃料サイクルについて」を公表したところであり、遠藤委員長代理には、「核燃料サイクルについて」を説明いただければありがたい。

(木元委員) 日本には日本のやり方がある。それぞれの国には国民性があり、今回取りまとめた「核燃料サイクルについて」にもそれが反映されている。その点を各国に理解いただければ良いと思う。

(5) 原子力委員会へのご質問・ご意見について

標記の件について、藤島参事官より資料5に基づき説明があり、以下のとおり発言があった。

(木元委員) ご質問・ご意見をいただいた方の中には、ときどきこの方はリピータだなと思う方がいる。こういう相互のやり取りがあることはとても良いことである。

(6) その他

- ・事務局作成の資料6の第31回原子力委員会定例会議議事録(案)が了承された。
- ・事務局より、10月14日(火)に次回定例会議が開催される旨、発言があった。